



（イギリスセラフィールド再処理工場の今を語る） マーチン・フォーウッド氏 報告会 盛岡で100人結集



イギリスの全ての海岸から
放射能が検出される事態
住民側の環境健康調査の
事前データが重要

十一月二十日午後、盛岡で、イギリスセラフィールド再処理工場の今を語る『マーチンフォーウッドさん報告会』主催 実行百人委員会 共同代表 森純子さん、立花静枝さん（ん）が開催されました。集会には、三陸沿岸各地の漁業関係者や消費者市民のほか、県議、市町村議員、環境運動関係者も参加し、セラフィールド現地の状況を聞きまし。実行百人委員会は賛同者が百人を越え運動の高まりを示しました。集会後、『三陸の海を守るため岩手県は責任を果たせ』などのプラカードを掲げ、大通りパレードが行われました。

マーチンフォーウッド氏はセラフィールド周辺の写真や、被害の資料を交え二時間余に渡って報告しました。グリーンピースジャパンの野川温子さんの適切な通訳と原子力資料情報室の澤井正子さんのプレゼンテーションソフト操作で内容の濃い報告会になりました。

報告要旨

一九五七年にも大事故

昔ウインスケールと呼
ばれた私たちの地域に、
一九五〇年代に軍事目
的の原子力施設が設置
され、五七年には原子
炉で重大な事故が発生
し、放射能がヨーロッパ全
域に拡散した。その後商
業用再処理工場へと転
換したが、八〇年代に入
って周辺に白血病の多発
が明らかになり、セラフ
ィールドと改称された。
再処理の必要性の根
拠として、当時、世界で
四〇〇〇基に増えるだ
らうと予想された原発
は現在四三〇基で予定
の十分の一である。天然
ウランも不足していない
再処理の必要性は失わ
れ、イギリスの再処理工
場は、四六〇億ポンドの
負債を抱え破産状態に
陥っている。

ソープ工場の事故

今年四月セラフィー
ルド工場で発覚した高濃
度放射性溶液漏洩事故
では、計量建屋の天井に
釣り下げられた計量器
のパイプに亀裂が入り八
万三千リットルもの高レ
ベル放射性溶液が漏れた
した。これは使用済み燃
料二二トンの分に当たる。
発見されるまで九ヶ月を

要したのは労働者が新
しい工場なので事故など
あり得ない」と思いこみ
アラームを無視したため
である。事故建屋の放射
能濃度は高く遠隔操作
でしか対処出来ない。

セラフィールド工場から

セラフィールド工場か
らは一日で九百万リット
ルの放射性廃液が捨てら
れている。プルトニウム
は重い物質であるが、実
際には、放射能は西風に
よって陸地に吹き寄せら
れ、波しぶきとともに舞
い上がり、再処理工場付
近や集落の上に「核の方
クテル」となつて降り注ぐ
それはプルトニウム測定
値を地図の上に記入し
グラフにして見れば明らかである。

放射能は英国全土に

軽い物質のセシウムは
カナダやグリーンランド
でもセラフィールドのも
のが検出され、英国のど
の海岸からも放射能が
測定される。地元で採れ
る「タマキビ貝」からは一
キログラムあたり百〜二百ベク
レルの放射能が検出され
た。国連は一キログラム
一ベクレル以上の魚の輸
出を禁止する方向にあ
る。英国より大規模な日

本の沿海漁業が受ける影響は計り知れない。セラフィールドの「リザ」

二年前イタリアが再処理の再契約に動き出したが、私たちは一計を案じてイタリア大使館にセラフィールド河口の泥や海藻で作った「リザ」を持参し面会を求めた。カードには地元大学で測ったプルトニウムやセシウムの計測値を明示した。大使館では受取りを拒否し、結局イギリス環境局が放射性廃棄物として処理した。

家のほりの中に放射能 海岸から7キロも離れた家のホコリから通常値の千倍もの放射能が測定された。二人の子どもを持つ夫婦は心配になり家を売って転居したが家は二束三文にしかならなかった。

五十年もの核汚染蓄積 私のパートナーは、核汚染されていることなど全く知らされていなかった。一歳の長男を連れて、セラフィールドの海岸でよく遊んだ。そのため息子は一二歳の時白血病になってしまった。幸い五年間の治療で今では健康になっている。しかし

セラフィールドの核関連産業労働者の一九六〇年代生まれの子ども達の白血病出現率は全国平均値の一四倍もある。 海岸の土壌を例えば一センチ、五センチ、二〇センチと掘って調べると二〇センチあたりが一番放射能が高い。重い放射性物質が浸透し固まっているのである。

住民側からの環境や健康のデータの準備を

再処理工場と闘うには、「公式発表」に依存するのではなく、「住民側の事前のデータ」が対置されねばならない。モーターリングに手法の違いがある。彼らは「安全なデータ」を取りたがる。政府はたった二センチの深さの土壌しか調べなかった。その五〇センチ横から高い放射能が検出されたりする。

CORE 今後の運動

私たちの会はCORE(環境の放射能汚染に反対するカンブリア市民の会)は五〇年にわたって汚染された環境をクリーンにして返せ」という運動を続けている。若手の人々と固く連帯して再処理をやめさせ海と

放射能で海を汚すな！ 盛岡の大通りをパレード ギター、ジャンベも繰り出して



報告会終了後、放射能で三陸の海を汚さないで！の横断幕とギターとジャンベの鳴り物を先頭にパレードが行われ、日曜日の大通りの買い物客などにアピールしました。出発時二五人ほどの行

生活を守りたい。

この報告のあと、会場から、「巨額の負債で破産しても何故ストップしないのか」「日本から持ち出した二七〇〇トンの使用済み核燃料はどうなるのか」「私たちに出来る事前の環境健康調査とはなにか」などの質問や意見が出されました。

(まとめ尚)

進が、三十分後の解散時には、五十人を越えました。「放射能の隠し味などごめんだ！」「さしみに放射能は嫌だ！」などのプラカードに共感の声があがっていました。 また、県議会で全会一致採択された請願の早期具体化を若手県当局に要求するプラカードも見られました。

宮古で『豊かな三陸の海を守る会』発足

十一月五日(土)、宮古市で豊かな三陸の海を守る会が発足しました。会には、漁業関係者や消費者市民、主婦、野鳥の会会員や宮古市、山田町の議員など二十五人が集まり、代表に山田町議員の田村剛一氏、事務局長に菅野和夫氏を選出し、規約を決定しました。運動の課題としては、沿岸各市町村首長に放射能汚染やその他の海洋汚染の防止について請願を行うこと、各地に幹事を置き、学習会や海の汚染監視、

百人委員会賛同者 カンパ百人を越える

マチン・ウオーウッド氏セラフィールド報告会開催にあたり、趣旨に賛同する百人委員会を発足させました。私たちの呼びかけは多くの人々の共感を得、集会当日までに賛同者(百人委員会参加)が百八人となりました。

宮古 山田で

「ピバクシャ」上映会

内部被曝の実態を描いた映画「ピバクシャ」(鎌仲ひとみ監督)の上映会が十一月二十日(日)山田中央公民館と宮古市民文化会館で開催されました。両会場とも小学生からお年寄りまで多くの人々が入場し、山田で約七十人、宮古で約八十人が鑑賞し、被曝について考えました。

アクティブ試験 二ヶ月延期の「ユース

朝日新聞の「ノーペー」に日本原燃の児島伊佐美社長は十一月十八日記者会見し、原子力発電所から出る使用済み核燃料の再処理工場(青森県六ヶ所村)で、〇七年五月に予定していた本格操業の開始を二ヶ月間延期し、同年七月とすることを発表した。この一ヶ月間「ユース」という記事が載っていました。したがって、アクティブ試験開始は来年一月になるということです。

ガラス固化体施設の設計ミスの影響と見られますが、内外の運動の影響や政治的情勢の変化も感ぜられます。

青森県知事への要請 アクティブ試験操業開始のための安全協定を結ばない事 みんなで署名運動を頑張りましょう。

署名用紙の入手、とりまとめについては左記まで、事務局 永田 〇一九六六(一)〇〇二